

先生は別人のように見えた
いつも優しく
周りに目を配っていた
先生……

ノアと交尾
している時には
私が存在して
いないかのように
一瞥もしない

まるで獣の
オスのように
自分の唾液を……ツバを
しつこくノアに
飲ませ続ける……

ノアはただ
されるがままに
ガクガクと
イキ続けていた

先生は激しく
獲物を
捕食している
動物のように
見える

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ぬる……

れん……♡
母……♡

ん……

二人は自分達だけの
世界に入っていた

これが
ノアと先生の
本当の姿だったの……？

シャールレの部屋で
みんなで笑いあってた時も、
二人とも 交尾のことしか
考えてなかったの……？

やがてノアは

トロトロに発情した
おま〇こを
自ら差し出す
ようになり……

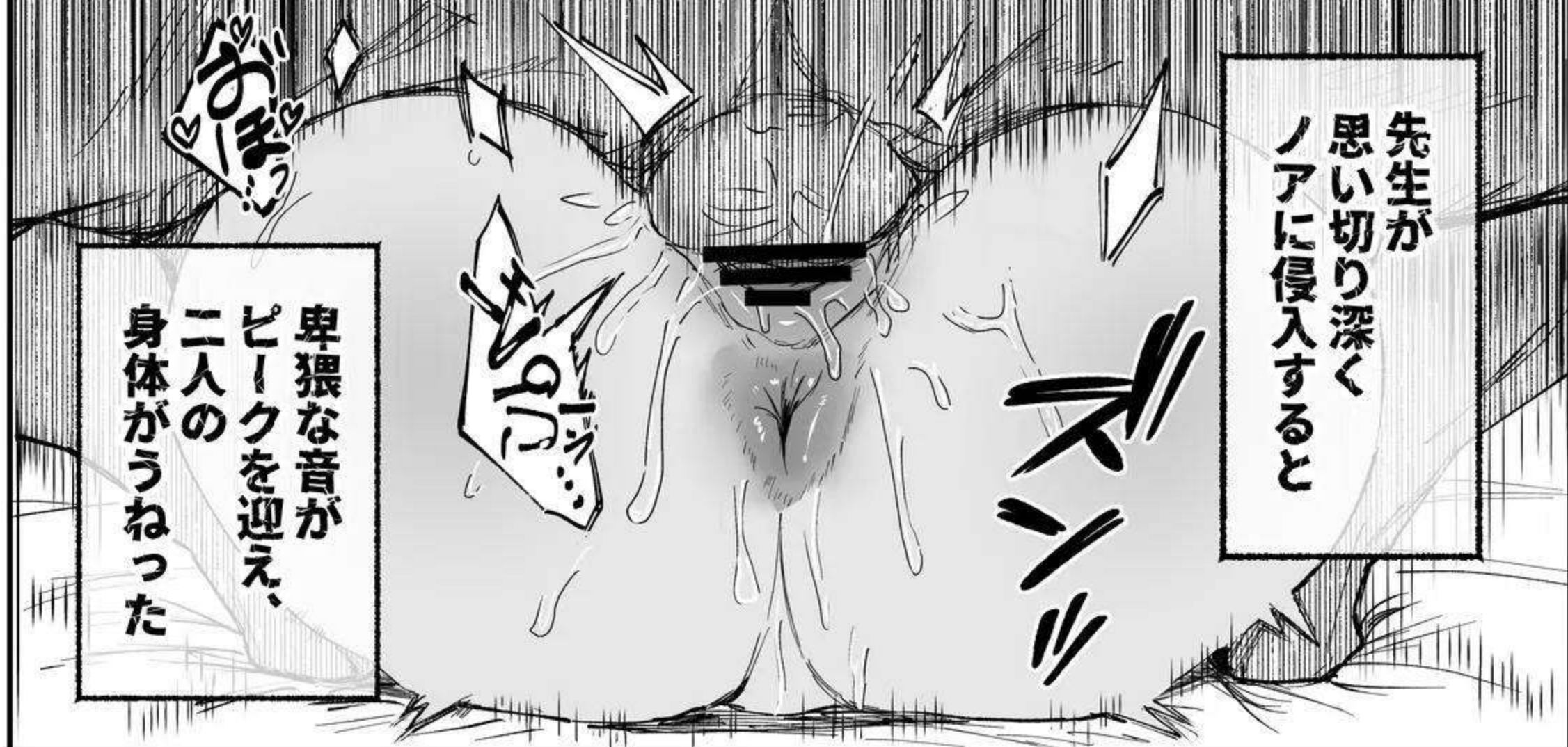


甘ったるい媚びた声で
鳴きながら、
先生の射精を
促すようになった

ぐちゃっ♡

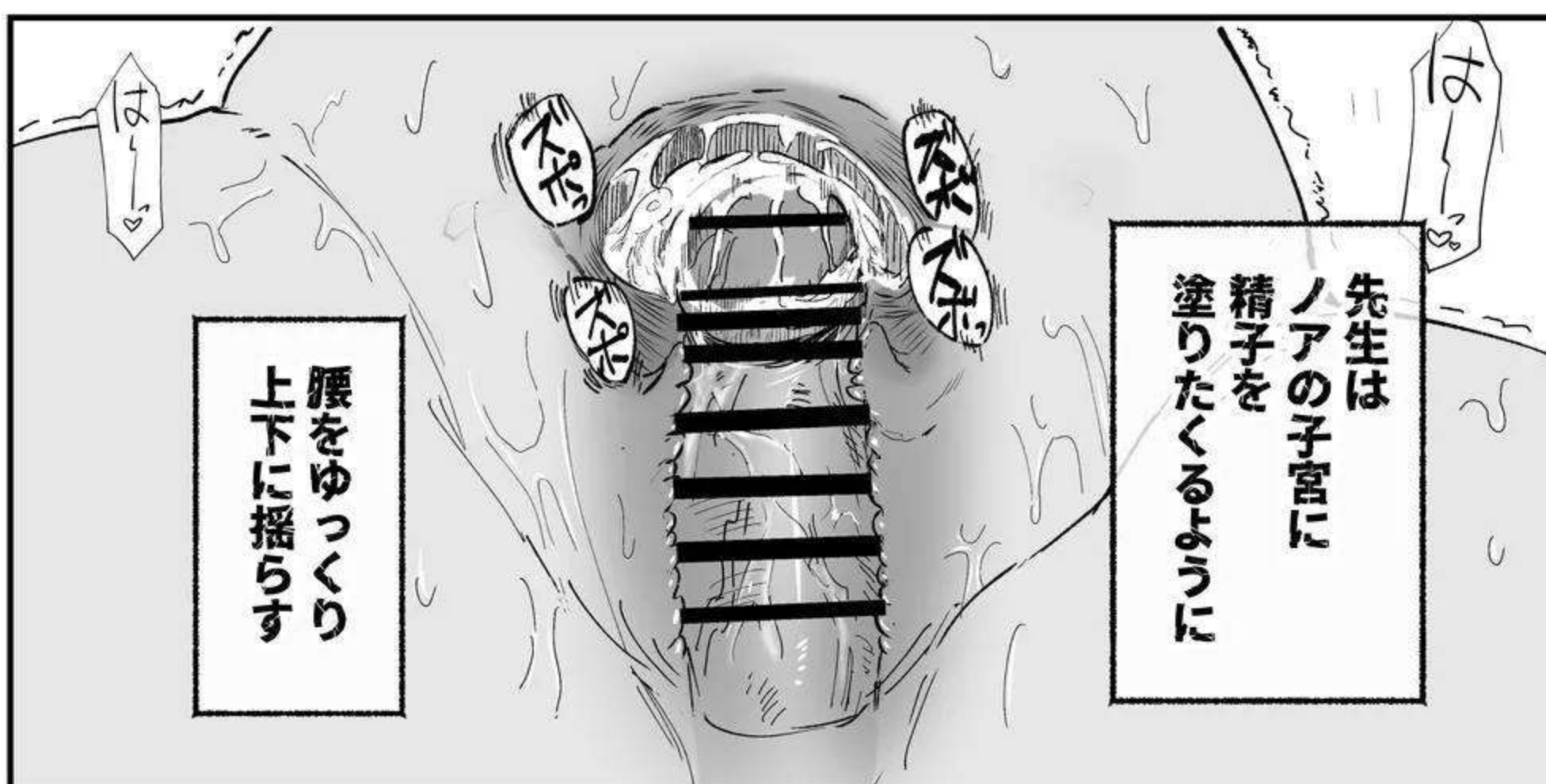
ぐちゃっ♡





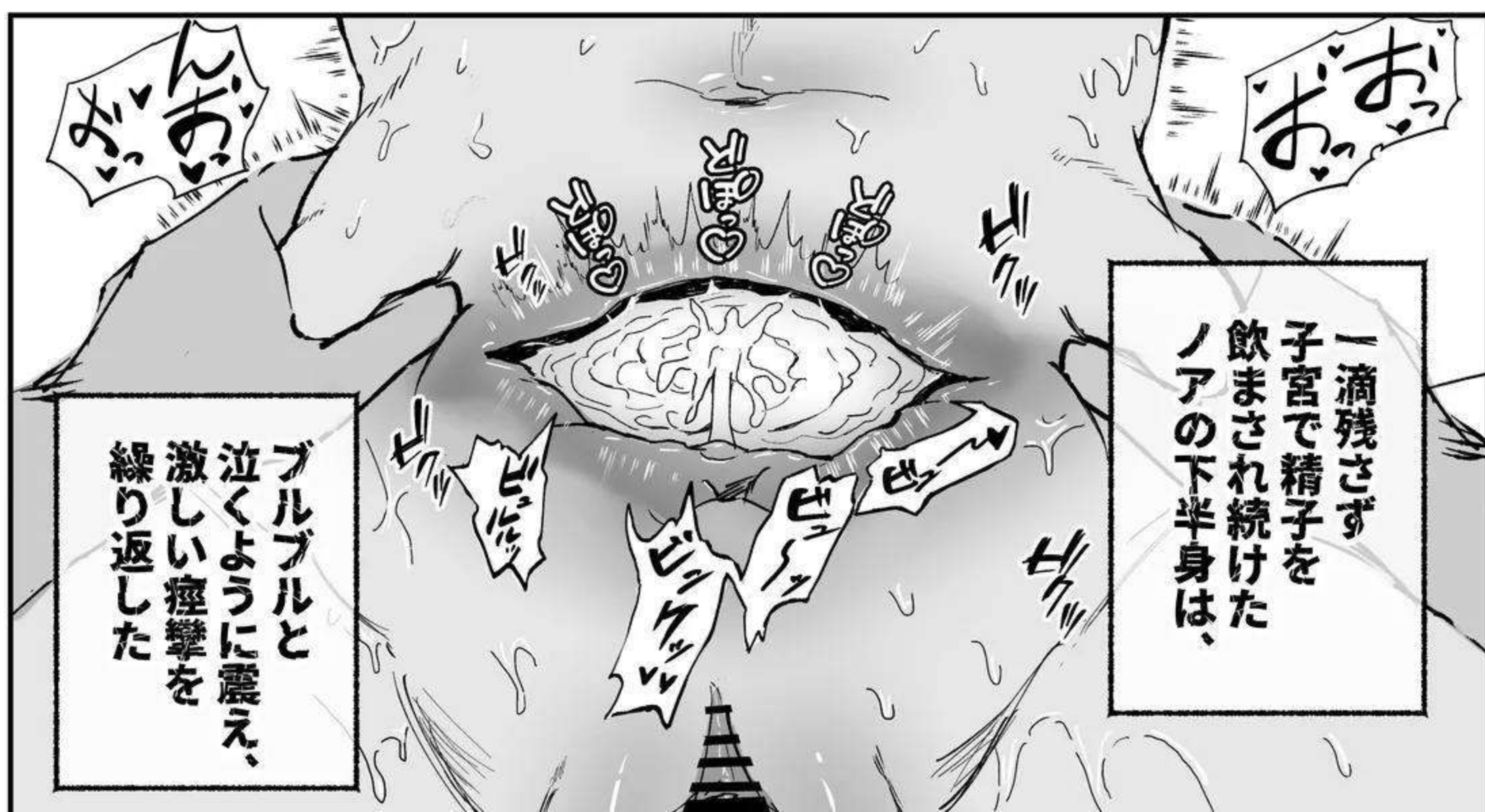
先生が
思い切り深く
ノアに侵入すると

卑猥な音が
ピークを迎え、
二人の
身体がうねった



先生は
ノアの子宮に
精子を
塗りたくるように

腰をゆっくり
上下に揺らす



一滴残さず
子宮で精子を
飲まされ続けた
ノアの下半身は、

ブルブルと
泣くように震え、
激しい痙攣を
繰り返した



先生はノアに
中出ししてからも
執拗にノアの中を
味わうように
ぐりぐり突き続けた

ノアは
身体をくねらせ
逃げようとするけど、
先生の上で踊ること
しかできない





ノアが
失神して失禁しても
先生は容赦なく突き続け、
それは延々と続いた――

—その日、
先生はまた
所有物を
自慢するように

白目を剥いて
ピクピク痙攣してる
ノアを
私に見せつけてきた

きっと私だけ
見えている
世界が変わって
しまったんだ





二人とも
私にとって
大切な人だった

本当に……
大切な人だった

だから……



「ユウカちゃん」

この感情は

因数分解できない

